令和8年度全国学力・学習状況調査より

校内全体研修会（各教科:今後の取組の方向性の考察）

今年度の全国学力・学習状況調査は、中学校3年生を対象に、「国語」「数学」「英語」の学力調査と生活習慣や学習習慣等に関する「質問紙調査」が実施されました。この調査の目的は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態を明らかにすることにより、今後の指導改善に役立てることです。本校の結果や分析を踏まえた改善点についてまとめましたので、その概要をお知らせします。

1 分析の概要 ○…良かった項目について ●…課題のあった項目について

【国語】

○全国平均より正答率が高かった設問・ほぼ同等だった設問

（1三）

「ら抜き言葉」を選択する問題であったが、日常的に言葉遣いについて指摘することや、方言についての学習で取り扱ったこともあり正答率はかなり高かった。

（2二）

話し合いの場面で、発言内容を確認する問題であったが、話し合いの内容が、「合唱コンクール」に向けての話し合い場面であったため、実体験に基づいた考え方ができたのではないかと考えられる。正答率は高かった。

（4三）

会話の中で表情を表す擬音語・擬態語の特徴をまとめたものとして適切なものを選択する問題であった。比較的平易な文章であったため、その特徴を読み取ることができていたと考えられる。

●全国平均より正答率が低かった設問

（1二）

前述の「ら抜き言葉」に関わる問題であったが、この設問では文法の知識が必要となっているため、文法事項の知識が曖昧である場合は正答できない。日本語を感覚的にとらえることはできるが、文法の体系的な知識や理解が不十分であることが考えられる。

（3四）

随筆を読み、「文章のよい点と改善点」と「今後生かしたいこと」を書く設問であった。記述式の問題であり、正答の条件が2つあるが、両方の条件をきちんと満たすことが難しかったと考えられる。また、無回答率は少なかったものの、問われている内容にそぐわない解答が多くみられた。複数の条件に沿って適切な内容を記述することに課題があると考えられる。

（4一）

二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く設問であった。条件1の具体的な様子という内容や条件2の擬態語の効果を本文から読み取り、本文中の言葉を用いて書くことができていない。また、無回答率は低いものの、両方の条件を満たさずに解答しているものも多い。

☆無解答率が高かった設問

○考察

以前からの課題であった無解答が比較的少なかったという結果が得られ、粘り強く問題に取り組み、何かしらの答案を書きだそうとする姿勢が感じられたことは成果といえる。

【今後の取り組みの方向性】

以上から、書こうとする意欲は育ってきているものの、資料を読み取り、複数の条件の下で文章を書くことに

課題があると言える。本校の研修目標である「自分の考えを表現する（書く・話す）ことができる生徒の育成」の9つの観点の中では、h. 複数の条件を踏まえて書くこと（条件の洗い出し・構造化）を学習活動の中で意識して取り入れていくことが必要であると考えられる。国語科では、単元の最後に、学習した内容を活用して文章を書く時間を設けているが、何が求められているかを把握したり、複数の条件を満たしたりすることをさらに意識させて、的確に記述できるように指導していきたい。

【数学】

○正答率が全国平均より『高い』問題について

7（1）動画の時間とデータ量の関係を表すグラフにおいて、点Cの座標を書く

9（2）学年別の睡眠時間について、学年別睡眠時間の箱ひげ図から読み取れることとして正しいものを選ぶ

・全体的に、【知識・技能】の観点で【短答式】と【選択式】問題の正答率と解答率が高かった。

・一問一答形式や問題文が短いものに関しては、問題に取り掛かりやすく、正答率・解答率ともに高かった。

・ワークなど日ごろの基礎・基本問題の定着がある程度見られた。

●正答率が全国平均より『低い』問題について　●無解答率が『高い』問題について

7（2） データ量が1000MBになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する

【数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる】

・教科書内で扱われている証明や説明の問題以外の場面で、「説明しなさい」と問われた場合、どのように書けばよいのかわからなかったのではないか。答えを求めるための道筋を言語化することに慣れていない。動画の時間の答えを求めることは多くの生徒ができると思われる。無回答率の高さもそれが原因と考えられる。

9（3） 「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張できる理由を、悠真さんが調べたことの二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する

【データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる】

・「度数分布多角形が同じような形で、23時以降に寝ている生徒の度数分布多角形が左にあるから」と解答すべきであるが、どのような言葉を使って説明すればよいのか理解している生徒が少ないと思われる。「左にある」という言葉で説明が成り立つことも、理解が深まっていなければ説明の仕方に悩む問題である。

8（3）図2において、証明する事柄における仮定となる辺や角の関係を選ぶ

【具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができるかどうかをみる】

・文章からどことどこが等しいかや、どの直線とどの直線が垂直かなどを確認することが苦手であると思われる。文章に書かれていることと図形をつなげて、文章に書かれていることを確認していくことができるようになる必要がある。

考察と今後の指導の方向性

○問題を解くだけでなくどのような手順で問題を解けばよいか、その手順を言語化できるように取り組む。

○説明する問題では、説明に必要な数学的な用語や効果的に使える言葉などをおさえておき、そういった言葉を使って説明する練習を重ねる必要がある。

○文章からわかることを図に印を入れるなどの活動に時間を取り、文章から問題理解する力を伸ばすように

する。
○無解答率が高い問題は、「説明する」「証明する」といった問題が多い。日ごろの授業から、言葉を使って説明→文字を使って説明→人に伝えて説明　と、段階を踏みながら練習する必要がある。
○式・表・グラフを関連付けて考える場面を、日ごろの授業でも取り入れていく。
○問題文が長く、複雑なものに慣れてなく、問題文から必要な情報を選択し、整理する力をつける必要がある。
また、問題文に何が書いてあるか、いま何を求めなければならないのかを全員で確認してから、問題を解くなどの工夫が必要である。

【英語】
○全国平均より正答率が高かった設問・ほぼ同等だった設問　～　問題番号2・7
●全国平均より正答率が低かった設問　～　問題番号3・4・13
●無解答率が高かった設問　～　問題番号10(2)・12

＜課題と今後の取り組みについて＞
『聞くこと』
『聞くこと』に関しては全国平均よりも上回るところもある。状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題はできている。
一方、説明の要点を捉えたり自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞きとったりするところには課題がある。また、話し手の心境など伝えたいことを察し考え、返答を選択することも苦手である。

『読むこと』
メールやメッセージなどを読んだり、グラフなど日常的な話題や社会的な話題について必要な情報を読み取ったりする問題では、質問の答えとして最も適切なものを選択したり、話し手の最も伝えたい内容を選択したりすることはできる。
しかし、物語の登場人物の気持ちの変化を表したものを選択したり、相手の示した条件にあうものや要点を捉えたりすることは苦手である。

『書くこと』
他の技能に比べ、無回答率が大幅に上がる。まとまりのある英文を読み、要点を捉え、自分の考えとその理由を書いたり、自分の気持ちを整理し表現したりするなど、理由・説明、感想などを表現することが苦手である。

『話すこと』
簡単な一問一答はできる。自分のことや好きなことを取り上げ話すことはできるが、その理由や自分の考えを述べることは難しい。日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたことについて、自分の考えとその理由を話し即興で伝えあうことに課題がある。
＜今後の取り組み＞
○英語の実践的な運用能力の育成を図るには、普段の授業から4技能5領域を意識し、総合的に育成させていく必要がある。
○まずは単語・連語などの語彙力の向上、基本文を中心とした基礎基本の定着をはかることに重点をおきたい。(自学ノート推進・プラスアルファの英作文など)

○読解問題において、書かれていることを全て一語ずつ読み取ろうとするのではなく、何が必要な情報であるかを判断し、大意・概要を読み取り、内容を理解する力が必要である。また、たとえ知らない単語があったとしても前後の文から推測し、文意を理解しようとすることが大切である。
○スピーチやプレゼンテーションなど人前で英語を話すことへの抵抗感をできる限り少なくするためにも、ALT のさらなる活用を目指したい。
○話すこと・やりとりをすることには総合的な力が求められており、今後、文法事項の形式や意味の理解に加え、授業等でのコミュニケーション活動時に会話を継続・発展させられるようにしていく必要がある。

どの技能にも共通して課題があるのは、簡単な『聞くこと』『読むこと』『書くこと』『話すこと』はおおむねできるが、問われていることのその『根拠をしめす』、『詳しく説明をする』など考えたり判断したり、感想を述べるとなると困難さがみられる。

全国学力・学習状況調査「生徒質問紙」の分析と次年度に向けた取組

1　本校の成果と課題

　今回の生徒質問紙の結果を兵庫県の平均と比較すると、多くの項目で本校の肯定的な回答割合が県平均を上回っており、特に、教職員と生徒との信頼関係、安心して過ごせる学級づくり、主体的・対話的な学習活動に成果が見られた。一方、家庭学習の時間やスマートフォン等の利用時間については課題が見られた。

○良かった項目

① 教職員と生徒との信頼関係

「先生がよいところを認めてくれる」が 94.5%、「困ったときに先生等に相談できる」が 77.4%となっている。教職員が生徒一人一人のよさや努力を認め、日頃から丁寧に関わっていることがうかがえる。今後も日常的な声かけや教育相談を大切にし、安心して相談できる関係づくりを継続する必要がある。

② 安心して過ごせる学級づくり

「学校に行くのが楽しい」が 94.6%と高く、「違う意見を言っても否定されない」も県平均を 13.8 ポイント上回っている。生徒が互いの意見を尊重し、安心して自分の考えを表現できる学級づくりが進んでいると考えられる。

③ 主体的・対話的な学習活動の充実

総合的な学習の時間における課題設定・情報収集・整理・発表の項目は 88.4%で、県平均を 17.5 ポイント上回っている。また、話合い活動や ICT を活用した学習についても高い割合となっている。今後は、こうした取組を各教科の授業にも広げ、主体的・対話的で深い学びの実現につなげたい。

④ 教職員による学習支援と地域への関心

「先生が理解できるまで教えてくれる」が 92.4%と高く、丁寧な学習支援の成果がうかがえる。また、「地域や社会をよくしたい」も 80.2%となっており、地域とのつながりを大切にした教育活動を継続していきたい。

●課題のあった項目

① 平日の家庭学習習慣の確立

平日に1時間以上家庭学習をしている生徒は 58.2%で、県平均を 4.8 ポイント下回っている。一方、休日は 52.8%で県平均を 1.1 ポイント上回っている。平日の家庭学習時間の確保に課題があるため、授業と家庭学習を関連付け、自主的に学習に取り組む習慣を身に付けさせる必要がある。

② スマートフォン等の適切な利用

平日に SNS や動画視聴等を2時間以上利用している生徒は 84.3%で、県平均を 11.3 ポイント上回ってい

る。家庭学習や睡眠などへの影響も懸念されるため、生徒自身が利用時間や利用方法を振り返り、適切にコントロールする力を育てる必要がある。学校と家庭が連携した取組も重要である。

次年度に向けた取組

今回のアンケート結果から、本校は教職員と生徒との信頼関係が築かれ、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境が整っていることが分かった。また、学級づくりや主体的・対話的な学習活動についても、県平均を大きく上回る成果が見られた。

一方で、平日の家庭学習時間やスマートフォン等の利用時間については改善が必要である。

次年度は、これまでの教育活動で培ってきた本校の強みを大切にしながら、家庭学習習慣の確立と望ましい生活習慣の育成に重点的に取り組みたい。学校全体で成果と課題を共有し、家庭とも連携しながら、生徒が自ら学び、自らの生活をよりよくしていく力を育てていくことが重要である。

2　これらの分析を受けて各教科の今後の取組の考察

【理科】

●課題

・自分の考えや実験結果の考察について、根拠を明確にし、順序を立てて説明する力や結果を比較するように記述する力に課題がある

・条件付きの文章を記述する力が弱い。何が問われているのかを正しく理解し、実験データや日常生活の事象などを根拠にして、論理的に文章を構成することに課題がある

＜今後の取組＞

○観察や実験により、直接的な体験をさせると共に、協働的な活動を通して、事象や理論の関連付けを行い、規則性や法則性を見出す授業展開

・予想の段階で出た生徒の発言をキーワードに授業展開を行う

・考察の際に最初に行った予想とつなげて情報を整理させ、考えさせる

・すべてを記入させるわけではなく、キーワードの書き込みを行うようなワークシートを作成する

○仲間と協働して課題を解決する力

・ICT を活用し、個人の意見を共有する機会を多く設ける

・他の生徒の記述も共有し、キーワードを押さえながら参考にし合うよう指導する

○日常と授業のリンクアップ

・学習内容が自身の生活とどうつながっているのか、興味を持たせる授業を行う

【社会】

●課題

・諸資料から得られる情報を整理し、自分の言葉で表現する

・情報を読み取り、班で共有、意見のすり合わせをする

＜今後の取組の方向性＞

・時間をかけて資料から気づきを得られるよう促す（導入・対話）

・公民分野・・・今実際に生活している国民としての視点を文章で表現する機会を設ける

・ワールドカフェ方式、ジグソー法などの活用　多角的な意見の交流

【音楽】

●課題

学テから

・自分の考えを言葉で表すことに課題がある

・複数の資料や条件の下で文章を書くことに課題がある

・別解を考えるような活動が少なく、解き方を 1 通りしか知らない（考えない）生徒が多い

※音楽科として

・楽譜や歌詞から作詞作曲者の意図する音楽表現について考察したり、表現活動につなげたりすることがなかなかできない。

・楽譜や音源、動画から得られる情報を整理し、音楽的特徴を踏まえて自分の言葉で表現することに苦手意識がある

＜今後の取組＞

・どのように演奏したいのか、またなぜそのように演奏したいのかを音楽的特徴を踏まえて書かせる取り組みをつくる

・教師から生徒への一方的な実技指導にならないよう留意する

【美術】

●課題

・基礎技術から応用への結びつけ

・2，3年の実技時間の確保（改善しつつある）

・自分の作品に主題（テーマ）をもって制作することが難しい

・自分で調べる学習を強化

・鑑賞の時間の生徒の考える時間の確保

・既存の作品デザインからの独自の発想を考える力が身につきにくい

・構想から制作ペースに入る早さにムラがあり、完成度に差が大きく開きつつある

＜今後の取組＞

・制作前の主題の設定

・目標をより細かくし、達成感を味わわせる瞬間を増やす

・制作時間と並行での鑑賞の授業展開

・グループワークによる他生徒の取り組みを知る時間を設ける

・鑑賞の時間を通して、生徒の構想や主題を考える時間を設ける

・生徒作品を鑑賞する時間を設ける

・教師側からの ICT を活用した、画像の編集による提案（例：風景画で選んだ写真を白黒で観察したり、色補正による色を変えた場合のシミュレーションを見せる）

・下描き制作、レポート等、細かい〆切の統一

・困り感のある制作技能をこまめに全体共有する

【保健体育】

●課題

・自分の考えや課題解決の方法について、根拠を明確にし、筋道を立てて説明する力に課題がある

・学習した知識や技能を活用したり、仲間との対話を通して課題解決につなげたりする ことが十分でない

・自己の体力の現状や課題を正しく把握し、継続的・主体的に体力向上へ取り組む意識 や実践力に課題がある

＜今後の取組＞

〇根拠をもとに考え、表現する力

・「なぜそう考えたのか」「どのようにすれば改善できるのか」を問いかけ、理由や根拠を明確にして説明する活動を取り入れる

・保健分野ではプレゼンテーションやレポート作成の中で「根拠のある主張」と「資料活用」に重点を置く

・体育分野でも ICT（タブレット・動画など）を使って、フォームや戦術を言語化・図示化しながら説明する活動を取り入れる

〇仲間と協働して課題を解決する力

・グループワークや意見交換を日常的に取り入れ、「他者と学ぶことの意味」や「学び合いの楽しさ」を実感できる環境をつくる

・互いの動きを観察して具体的な改善方法を伝え合う活動を取り入れる

〇体力の向上と運動習慣の定着

・新体力テストの結果から自己の体力を分析し、伸ばしたい体力要素を選択して、個人の目標や運動計画を立てる活動を取り入れる

・授業の導入や準備運動に、体力の向上につながる運動を継続的に取り入れる

→中学3年間の中で課題を見つける力や解決力、技能を伸ばしていく中で、生涯にわたりスポーツに親しむ力を涵養させていく

【技術家庭】

●課題

・考えたり、ものづくりをしたりするときに根拠となる知識や技能に結びつけて行動に移すことが難しい

・実習をする際の基礎となる技能が定着していない

・ものづくりをするに当たり、プログラミング的思考が弱く、自分の考えを形にして表現 することが難しい

・問いの答えに結び付く知識が不足している場合、iPad 等で調べる力が不足している

＜今後の取組＞

・問いの設定に工夫 ← 自分で答えを見いだす

・失敗 → 成功するための試行錯誤 という意識に変える

・答えではなく、根拠を問う

・作業工程や評価基準を明確化することで、意欲をもってトライできる環境づくり

・知識を根拠に、実習ができるように、なぜそうすべきなのかを考えさせる場面の設定

・AI を授業内でも使用し、モラルの指導を行う